外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

ハローフレンズ

ファイセック FICEC
ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2020年 1 月号（年3回発行）第152号

ONE TEAMで頑張ります

穏やかな新年を迎えられたことと思います。昨年中も大変お世話様になりました。お蔭様で黒字決算で2019年度の会計期間を終わらせることができました。皆様のご支援あってこその1年だったと感謝しております。

オリンピックの話題で持ちきりの2020年は、ふじみの国際交流センターにとっても立ち上げて24年、NPO法人になって20年、認定NPO法人になって7年の充実と希望の年でもあります。

昨年4月から、「外国人材の適正・円滑な受け入れの促進に向けた取り組みとともに、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備を促進する」という出入国管理庁の方針にもとづいて、生活者としての外国人に対する支援が国レベルで始まりました。生活情報の多言語化、相談体制の整備、地域における多文化共生の取り組みの促進、生活サービス環境の整備、日本語教育の充実、外国人児童生徒の教育の充実、適正な労働環境の確保など、まさにFICECが望んで活動してきたことが、やっと考えられるようになったわけです。本当に「やっと」と感慨にふけっています。外国人支援をしている団体に経済的な支援が必要というようなGOOD NEWSはありませんが、初志貫徹。活動の必要性が社会で認められるようになるまで、あきらめず、くじけず、理事・スタッフが協力し合いONE TEAMで活動を続けてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

第一回生活相談室研修会

2019年12月12日　上福岡西公民館にて

三宅万里子

相談員およびスタッフ希望者を対象として研修を行った。出席者８名で、外国人への生活相談を担当するにあたっての基本姿勢、やってはいけないこと、情緒的なニーズに対する初期支援ケア、会話を進める際のコツ等の指導があった。相談室には必ず相談者のみで付き添いは入室しない、高校生で先生が付き添ってきても説明をして、先生は外に出ていただき必ず相談者のみとの話し合いとする等、詳細な指導があった。また今回は事例として、DVと入管法を取り上げて研修を行った。

DV事例

夫または同棲者の暴力にあっているDV被害者への対応については、じっくり話を聞き、相談者の決意の方向を見極める。また相談者の気持ちを傷つける言葉に注意し、非難しない。必ず市町役所の担当者に即刻報告をして、次のステップを市町役所を通して行うことが大事との指導があった。また、その後の支援に支障がないよう、本人が警察に被害届を出しておくことの大切さを学んだ。

入国管理法

入国管理法の改正があり、複雑な入管法について行政書士より的確な説明があった。在留特別許可申請について、また特定技能資格等についても担当員から質問があった。

この研修会は2か月に一回周期のシリーズで行う。次回は2020年2月26日、１０時～11時30分、西公民館にて開催する。

中学生がFICECを訪問しました

小林暁美

最近FICECを見学したいという要望が大変多くなっています。11月15日（金）に大井西中学校の生徒３人と先生がFICECを訪問しました。

総合学習の課題で国際理解をテーマとして、日本に住む外国人は普段の生活の中でどう思っているのかを調査したいということで、前もって質問事項を送ってもらい、それに対してスタッフが答える形で進行しました。

丁度FICECを訪問していた外国人女性にも加わってもらい、FICECの活動の内容、日本の生活で困ったこと（病院に行く時や、スーパーで商品の名前が漢字で読めない…）や日本に来て良かったこと（人がやさしい、よく時間を守る、自分の視野が広がった…）などを話しました。

それから「中学生に何かできることはありますか」という、とても良い質問をいただいたので、「もし皆さんの中学校に外国から来た同級生がいたら、どうか勇気を持って声をかけてあげてください。」とお願いしました。外国人生徒はなかなか自分からは話しかけられません。一言声をかけるだけで救われる気持ちになる子が沢山います。また暗黙の了解がわからないので、戸惑う子もいます。例えば「毎日必ず朝練に来て」のようにはっきり伝えることも大事です。日本人と一緒に遊んだり、出掛けたりすることで日本語も上手になります。外国人の友だちができると日本人側の視野も拡がります。

皆さんが熱心にメモを取っている姿が印象的でした。課題の発表会もあるそうなので、今日伝えたことをどのように報告してくれるのか、とても楽しみです。

『「国民の声」を聴く会』報告

石井ナナエ

2019年4月に入国管理局から新しく組織改編された出入国在留管理庁より「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策において多文化共生社会の実現に向けて『「国民の声」を聴く会』を設置した。FICECが外国人を支援する活動の中で、団体が抱えている課題や取り組み状況、法務省の施策に対する意見を聞かせて欲しい」という依頼を受け、11月28日に矢澤理事と二人で法務省に行ってきた。門から部屋に入るまで3回も身分証明書を確認するという厳重ぶり。でも通された部屋はこじんまりとした古めかしい会議室で、出入国在留管理庁長官の佐々木聖子さんを中心に出入国在留管理庁各課の課長、文化庁、文科省、外務省、警察庁、内閣府、総務省、経産省、内閣官房本部等30人の職員がにこやかに迎えてくれた。招かれた団体はFICECと横浜市国際交流協会、国際日本語普及協会の3団体。緊張しつつも和やかに意見交換が進められた。

国際日本語普及協会(AJALT)からは

- 仕事が忙しくて親は学ぶ時間がないため日本語が話せない。企業に対して日本語を学ぶ時間を割いてもらうように要望してほしい
- 経済的理由で上の学校に行けない子が多い。具体的な支援施策を国に求める
- 年少者への日本語教育専門家の資格を持っている人は、教員免許のある無しに関わらず、学校内で活動できるようにしてほしい

横浜市国際交流協会からは

- 外国人の「母語の支援」も国として取り組んでほしい。日本の多様性社会の柱を作るバイリンガル教育のような考え方が必要
- 未就学児と保護者のケアが十分でない。
- 中学卒業後の将来に向けてのキャリア形成に踏み込んだ支援が必要

FICECとして提案した意見は

① 多文化共生を考える上で地域に暮らす外国人の実状を調査することが重要。まだ何も把握されていない

② 外国から新労働者を受け入れるのも良いが、日本で生活している家族滞在の子ども達が就労出来るように在留資格を拡大して欲しい

入管庁の答え：中学で来日した子も特定活動ビザ(1年毎の更新)で働くことが出来るようになった

③ 外国人と顔の見える関係になり孤立させないことが大切。外国人人口2.5％以上の全ての市に多文化共生総合相談ワンストップセンターを作るよう義務付けたらどうか

入管の答え：全国111カ所のワンストップセンターの設置を考えている。現在95の自治体からの応募があった。12月末まで3次募集を行っている。応募してみたらどうか

④ 総合的対応策の中に「日本語を自学・自習できるICT教材を8か国から14か国に拡大」とあるがどのようなものなのか？探したのだが、見つけることが出来なかった。

文化庁の答え：ICT教材はまだできていないので公表していない

⑤ 誰でも簡単に情報が得られるような仕組みを作ってほしい

入管庁の答え：ポータルサイトは見つけにくい場所にあった。今はもう少し浅いところにもってきたが、まだまだ見つけにくいという意見がある。外国人へもっと宣伝を考える。

⑥ 外国人集住地区でない地区に住んでいる外国人は特に、基本的な情報さえ得ることが出来ない。住んでいる場所によって情報の格差があるのは問題だ。翻訳版にフランス語も加えてほしい

入管庁の答え：すべての言語の翻訳版は難しいので、やさしい日本語版を作っている。言語を少しずつ増やしていきたいと計画している

⑦ 日本語教室では、学習者からの小さな悩み相談を聞くことが多々ある。日本語教室は外国人にとって一番近くの日本人で、初めて日本語を話す相手かもしれない。

文化庁から：日本語教師の質の確保を考えている。日本語学習支援者(日本語ボランティア)に対してのカリキュラムを開発しているところ。出来たら全国に送る。ボランティアも育成にも力を入れる。これからの国の動きに期待したいと思う。

スタッフ紹介　FICECと関わって17年

戸塚 咸子

私とFICECとの出会いは定年退職して毎日が日曜日を満喫し飽きた頃の事です。在職中に研修会で出会ったビッキーさんの「フィリピンへ日本語学校を」という言葉を思い出し鶴瀬にあったセンターを訪ねました。

その時、中国から来ていた小学生の豆ちゃんやかえんちゃんに出会い日本語を教えることになりました。もう17年前の事です。当番、日本語教室、子どもクラブだけでなく毎日のように学校へ取り出し授業に出かけたりしました。学校での国語と日本語の教え方の違いに戸惑いながらなんとか此処まで来ました。

最初のころ教えた子どもたちは日本や母国で職に就いたり子どもの親になったりしています。Ｎ２を取って帰った子どもは母国で日本語を教えています。3.11で日本が大変な時、中国の庄さんからお見舞いのメールを頂きました。センターは世界と繋がっていると感動した事は忘れられません。

一身三生を生き、喜寿を元気に迎えられた事はセンターでのボランティアが大きな力になっていると思います。ナースとして9年、教師として34年働いて来ました。今、ボランティアとしてセンターでお手伝いできていることは幸福です。これからも社会と繋がりを持ちながら頑張って行けたらと思っています。

私が元気でいられるために心掛けていることは食事に気を付け食品をできるだけ多く取ること、運動すること、社会と繋がりを持つことです。

センターの皆さんには迷惑をかけると思いますが、もう少しここで私のできることだけ好きにさせてください。よろしくお願いします。

これからも応援しています

秋本ノエミ

8年前にみずほ台公民館で「インフォメーションふじみの」を見て、ふじみの国際交流センターを知りました。「小学校に国際理解の講師としてフィリピンの文化や遊びを紹介に行って」と頼まれて驚いたのですが、子ども達の嬉しそうな顔を見て「講師を引き受けて良かった」と思いました。その後パソコン教室に通うようになり「スタッフになってくれませんか」と頼まれ、2年前の10月から、毎週木曜日の当番としてセンターに通うようになり、センターの活動にますます参加するようになりました。富士見市国際フォーラムでのスピーチや、キラリ富士見のフィリピン人の招聘事業にも協力してきました。

英語・タガログ語の同行通訳者として、大勢の外国人からの依頼を受けて病院・学校・市役所・児童相談所・母子支援施設・不動産屋さん・裁判所などにも行きました。

一番印象に残っているのが、親から離れ児童養護施設に預けられている子ども達を見た時でした。平凡だけど幸せな暮らしをしている自分と、全く違う世界にいることが信じられませんでした。

バスケットボールのコーチの夫について日本に来ているケニアの女性もすごく記憶に残っています。彼女の依頼で、妊娠中に何度も病院に行って同行通訳をしました。ケニアと違い、妊産婦受診で検査の多さに驚く彼女に、日本の病院の仕組みの全てを分かるように話すのは大変でした。超音波の検査について、無料診察券の使い方・入院時に必要な保証人・黄疸で一緒に退院できない赤ちゃんについて、生まれた後の予防接種など。プライベートな相談も受けるようになり、メールや電話での話だけで足りず、彼女の家に通うことも何度もありました。「これからはノエミと対等な友達になりたいから」と「出来るだけ自分でやってみる。分からないことがあった時だけ教えて」と言われるようになりました。帰国した今も育っていく赤ちゃんの写真を送ってくれます。こんな出会いもFICECに関わったおかげだと思っています。自分をもっと磨きたいので、しばらくFICECを去りますが、これからもずっとFICECを応援しています。

新副理事紹介　話を聞いて、一緒に悩む場所として

安 銀柱

この度、FICECの副理事長を拝命いたしました、安 銀柱（あん うんじゅ）と申します。日本に暮らした20年は、長い時間でしたが、あっという間の日々でもありました。今でも外国での暮らしは、「知らなかった」の連続です。その都度、沢山の方の親切に助けられてきた事を忘れません。

FICECにいると、いろいろな相談を受けます。

私も20年の間に自身で経験したことのある悩みもあれば、どうすれば良いのか分からない複雑な悩みもあります。外国人差別やイジメといった、聞いていてつらい相談も絶えません。

すぐ解決できなくても、話を聞いてくれる人がいて、一緒に悩んでくれる場所こそが、FICECなのだと思います。これからもFICECの活動に、少しでも役に立てるように頑張っていきたいと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

見送りの３振より空振りの３振　パートⅡ

石井ナナヱ

○月○日　千客万来。

最近急にFICECへの来訪希望者が増えた。1番は卒論のテーマに外国人との共生を取り上げている大学生からの依頼。「乳幼児医療と多文化共生」とか「子どもの学びと多文化共生」とか、いろいろな研究テーマに多文化共生を付けてくる。「FICECに来る前にホームページをしっかり読んでから来て下さいね」と念を押す。

次に多いのが企業の訪問。「高齢外国人が増えるだろうから成年後見事業の対象を広げたい」とか「外国人対象にこんな仕事をしたいのだが協力してもらえないか」とか「こんな試作品を作った。外国の方に試しに使ってもらえないか」とか「外国人を雇うことになった。気をつけなければいけないことを聞かせて欲しい」などなど。

新聞の取材や他県からの視察も増えた。4月に出来た入管庁の長官からも「在住外国人の実状を聞かせて欲しい」という依頼が来ている。今まで見向きもされなかった在住外国人にやっとスポットライトが当たったようでほっとしている。

○月○日

2019年度中にも素敵な出会いがたくさんあった。いろいろ教えていただいた中で特に印象に残っている言葉が２つある。１つ目は講師依頼に来られた、長年介護施設で働いている社会福祉士さんの言葉。「20年前にお世話していた方と現在入居している方を比べると日本人の実年齢は0.8掛けですね。若いと言うことです」という。そうすると私は72歳×0.8。フムフム。もうだめなんて言っていられない。２つ目は、ボランタリーなFICECのスタッフや外国人利用者に毎月お野菜を届けてくださるＮさんの言葉。「日本人の寿命はどんどん延びている。人生の第２ステージに立った今でも様々なことに挑戦していくことが大切。ワクワク・ドキドキ・コツコツがコツです」すごーい。実は「年だから。年だから」と投げ出していたことがたくさんあるんです。ワクワク・ドキドキ・コツコツがコツ。新年が明けたら登録支援機関の登記に挑戦してみようかな。

朝日新聞（10月18日、11月12日号）と読売新聞（10月24日）にFICECが掲載されました

朝日新聞10月18日号「熱中症・エボラ…迫る五輪医療の備えは万全か？」の記事の一部でFICECの同行通訳のうちの医療通訳について紹介されました。また、11月12日号「（もっと知りたい）東京五輪と医療：４外国人診療、言葉の壁超えられそう？」の記事の中で医療通訳について紹介されています。

読売新聞10月24日号「外国人の悩みによりそう」という見出しで日本語教室での学習の様子を中心にFICECが紹介されています。

また同記事の中で、「支援の輪拡大へ入門書」として2017年に発行した「外国人生活相談入門書」も紹介されました。

今年も続きます『café FICEC』

昨年11月24日の交流会はとても賑やかでした。

毎月開かれる交流会「café FICEC」に25人もの参加者が集まり、フィリピンの文化や食べ物、遊びなどを一緒に楽しむことが出来ました。子どもも沢山来てくれました。初めて見る遊びに夢中になった日本の子どもや、日本で生まれた子どもに懐かしい母国の遊びを教えるフィリピンのお母さんたち。楽しみ方も、それぞれのようです。

「初めまして」で始まって、「楽しかったね」で終わる、そんな「café FICEC」は、今年も続きます。次回は2月29日（土曜日）午後2時からです。詳しくはFICECまでお電話ください。

左から豚の皮を揚げたもの、フィリピン風ビーフン、揚げ春巻き

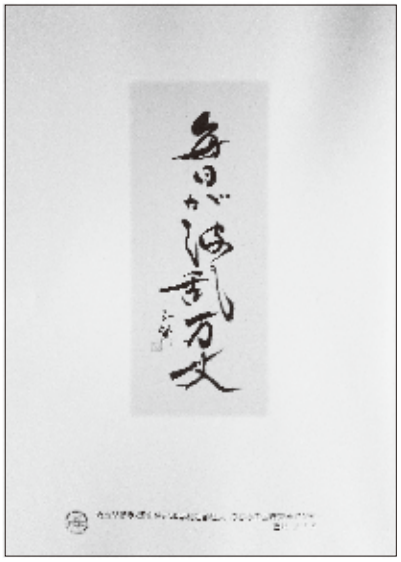
子どもたちにフィリピンの遊びを紹介しています

石井理事長の日記が本になりました

「…（一部抜粋）○月○日　日本人のお父さんを探してください」とフィリピン人女性と、日本語がぜんぜん話せない日本国籍のT君が、ふじみの国際交流センターを訪ねてきた。夫婦仲が悪く、T君が生まれてすぐ３人の子どもを連れて母国に帰ったらしい。…」

この度、石井理事長による「毎日が波乱万丈」というタイトルの本ができました。前作の「見送りの三振より空振りの三振」からの抜粋に加え、新たに編集したものです。石井理事長の平成時代の日記を通して、FICEC誕生のいきさつから、毎日寄せられる数々の外国人生活相談の様子や、活動の中で関わった多くの人たちのこと、NPOとして活動を続けていくことまで、写真や最新の資料を交えて詳しく知ることができます。お一人でも多くの方に読んでいただけると嬉しいです。

定価500円（送料別）で購入できます。お求めについてはFICECまでお電話かメールでご連絡ください。



上／「毎日が波乱万丈」表紙

下／去年の総会後の懇親会にて。表紙の題字を書いた野辺正耕氏ご夫妻と石井ナナエ理事長（中央）

感謝　ノートパソコンを頂きました

連合埼玉と(一社)埼玉労福協が運営する「ネットワークSAITAMA21運動」の「NPO応援・物品助成プログラム」より、ノートパソコンをいただきました。贈呈式にはFICECスタッフ2人が伺いました。大切に使わせていただきます。

ふじみの国際交流センターのサポーターになってください

マンスリーサポーター募集中!!

在住外国人に多言語での情報提供や、生活相談、日本語学習の場が必要と思う方、在留外国人の孤立を防ぐための活動が必要と考えている方や企業のみなさま、またボランティアをしたいけれど時間のない方はマンスリーサポーターとなってください。

一人でも多く方々の支援をいただき、わたしたちの活動が今後も継続して行けるようになればと、切に願っております。ご理解ご支援をお待ちしています。

マンスリーサポートの流れ

①HPの申込フォーム、電話、FAX、ハガキ等でも受付ております。

住所　〒356-0004
埼玉県ふじみ野市上福岡５-４-２５

電話　049-256-4290
または　049-269-6450

FAX　049-256-4291

認定ＮＰＯ法人　ふじみの国際交流センター
マンスリーサポート係

②ご連絡いただいた方に、ゆうちょ銀行指定の自動払込申込書(3枚綴り)を送付します。

③ゆうちょ番号・寄付金額をご記入の上、押印して、返信用封筒にてご返信ください。

④毎月25日にゆうちょ銀行口座から自動引き落としで対応させていただきます。

スポットサポーター募集

郵便振替口座(口座番号:00110-0-369511、口座名:[特活]ふじみの国際交流センター)または、現金書留でお願いいたします。

広告

Organic & Natural foods store

おいしいはしあわせ　**サン・スマイル**

SUN SMILE

創業22年
オーガニックや無肥料栽培野菜、お米、雑貨、衣料品、コスメ、書籍など2500種類以上の商品と、元気いっぱいの笑顔でお待ちしております！

●営業時間　10:00-19:00
●定休日　日曜日(祝日営業)
●住所　埼玉県ふじみ野市苗間1-15-27
(ふじみ野駅西口から徒歩7分)
●電話　049-264-1903

○お店の広告を出しませんか？詳しくはFICECまでお問い合せ下さい。

FICECの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

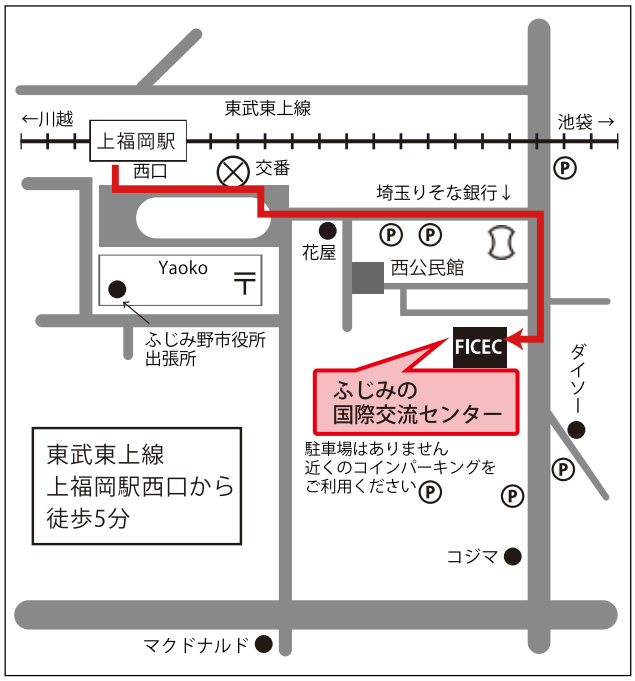
郵便振替口座:00110-0-369511
口座名:[特活]ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
FICECをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
TEL: **049-256-4290** FAX: 049-256-4291
生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々
ご支援ありがとうございます

●2018年11月1日～2019年12月24日(敬称略)

〈団体〉丘亜蘭、国際ソロプチミスト埼玉、立麻医院立麻典子、田村工務店、東入間地区遊技業防犯協力会、(株)吉岡、立正佼成会一食運動

〈個人〉秋池敏子、秋本ノエミ、穴沢エミリン、安部幸枝、新井順子、新井良司、荒田光男、安銀柱、イクムラヤスノスケ、伊藤真弓、石橋勝、岩田愛子、岩田仁、上島直美、午込亜紀子、大沢エミリー、大場弥太郎、大室昭浩、加藤久美子、加藤由里子、狩野照乃、神田歩、神田順子、木場哲雄、木村不二雄、ギャレット三宅万里子、樟山直美、栗島美千代、木場ひろみ、小林暁美、小林和恵、駒形一夫、権田貴久子、佐藤茂、佐藤義治、サプコタ、江科、邵玲揚、高橋、橘賢、立麻慶子、田中功、田中つや子、チョン玄淑、チンテイバン、坪田幹男、寺村壁如、富田恵子、富田慎太郎、中川令子、永田信男、仲野谷美恵、中村禎作、中山のり子、楢府憲太、西山正浩、野沢弘子、萩原千代子、朴、長谷川正江、林田信幸、半田栄子、久光陽太、深田四郎、保坂佐紀恵、星野真弓、松下敏恵、三浦清子、三橋、ミン、村山光代、茂木久美子、森下理恵子、矢澤美紀、山口満江、山崎友理、山畑博子、吉井ジュリエッタ、吉沢悦子、劉海燕、渡邊邦枝

〈マンスリーサポーター〉石井幸夫、石井ナナエ、遠藤慧子、太田政男、小林久美、末吉智子、中島恵津子、中田好江、中山浩子、野田恭三、野辺頼之、藤井みどり、八重樫紀久枝

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター**サービス案内**

外国人ゲスト派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費＋事務費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円＋交通費 (活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円＋交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円／人、日

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。